

会 議 記 録 (1)

| | |
|-------------------------|--|
| 会 議 名 称 | 令和4年度第3回北本市地域福祉推進委員会 |
| 開 会 及 び 閉 会 日 時 | 令和4年12月1日(木) 14時00分から15時45分まで |
| 開 催 場 所 | 北本市文化センター 第3研修室 |
| 議 長 氏 名 | 高島恭子 |
| 出 席 委 員 (者) 氏 名 | 高島恭子 深谷 忍 白石春彦 鹿島二郎 近藤洋子 吉田伸吾 仲谷まり 松崎 剛 浅野 勉 山賀朋子 |
| 欠 席 委 員 (者) 氏 名 | 吉野道子 奥山美穂 荒井理恵子 佐藤 佐 醍醐 隆 |
| 説 明 者 の 職 氏 名 | 共生福祉課長 吉田美佐男 共生福祉課主幹 宮部亜由美 共生福祉課主幹 長島俊介 北本市社会福祉協議会 星野祐一 |
| 事 務 局 職 員 職 氏 名 | 共生福祉課長 吉田美佐男 共生福祉課主幹 宮部亜由美 共生福祉課主幹 長島俊介 北本市社会福祉協議会 星野祐一 |
| 会 議 次 第 | 1 開 会 2 議 題 (1) 第三次北本市地域福祉計画・地域福祉活動計画案について (2) その他 3 閉 会 |
| 配 布 資 料 | 会議次第 第三次北本市地域福祉計画・地域福祉活動計画案 |

| 発言者 | 発言内容 |
|---------|--|
| 事務局 | <p>1 開会</p> <p>(あいさつ)</p> <p>(資料確認)</p> <p>(会議の公開・非公開について説明)</p> |
| 議長（委員長） | <p>(あいさつ)</p> <p>事務局から本会議は、原則公開とすることについての説明がありましたが同意することよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> |
| 議長（委員長） | <p>本会議を公開とします。</p> |
| 事務局 | <p>なお、本日の会議につきまして、事前に傍聴の希望をとりましたが、希望者はいませんでしたので報告します。</p> <p>議長につきましては、地域福祉推進委員会設置要綱第6条第1項の規定により、委員長にお願いいたします。</p> |
| 議長（委員長） | <p>2 議題</p> <p>(1) 第三次北本市地域福祉計画・地域福祉活動計画案について</p> <p>それでは、(1) 第三次北本市地域福祉計画・地域福祉活動計画案について説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>(資料に基づき説明)</p> |
| 議長（委員長） | <p>第1章については、変更はないというご説明でしたが加えておきたいご意見等はありませんか。</p> |
| 深谷委員 | <p>第1章の8ページの枠の中に「結婚を希望する人への支援を行います」とあるのですが、何か具体的な支援を考えているのでしょうか。</p> |
| 山賀委員 | <p>トマトカレーを作って、見知らぬ男女がパーティをしましょうとい</p> |

| | |
|------|---|
| 事務局 | <p>うのがコロナ前にあったと記憶していますが、コロナで中止になったような感じです。</p> <p>社会福祉協議会で結婚相談事業をやっており、トマトカレーのイベントを通じた結婚のマッチングをやっていました。コロナで中断していますが、総合福祉センターの指定管理事業の中で、結婚相談をやろうということで位置づけられています。以前から社会福祉協議会で相談事業はやっていたのですが、少子高齢化対策等の一助として、指定管理事業として位置づけてやっている事業です。</p> |
| 深谷委員 | <p>私の認識として、結婚相談事業は、本市の第5次総合振興計画で初めて出てきたもので、何か市として具体的に新しい取り組みを考えていたのかをお伺いしたいです。</p> |
| 事務局 | <p>総合振興計画の事業で所管が別のところになりますので、ここでどういった事業を位置付けているかは確認して回答させてもらいたいと思います。あくまで地域福祉計画に関する総合振興計画の部分を抜粋しているものですので、ご理解いただければと思います。</p> |
| 委員長 | <p>他に質問がなければ、次に進んでいきたいと思います。13ページから42ページまでの第2章の説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>(説明)</p> |
| 委員長 | <p>第2章の説明に何かご意見はございますか。</p> |
| 鹿島委員 | <p>子どもの状況というのが16ページにありますが、最初にいただいた資料の中に、アンケートの問28「将来も北本市に住み続けたいと思いますか」という設問で、18～19歳の子たちは「転出したい」という割合が32.6%あるのです。20～29歳だと41%あります。パーセンテージにしては低いし、原因もよくわからないけれど、なぜこの子たちが住み続けたくないのか、「できれば北本から転出したい」と考えるのか、その原因の記述が一つもないので、それが気になりまして、何か具体的な方法はないのかと思って、その方法が少しでもあるかなと</p> |

| | |
|------|---|
| 事務局 | <p>思って見ていたのですが、それは一つもないようなので、取り越し苦労かもしれませんが、年齢が若いから北本の良さを理解していないからこういう結果が出てくるのかわかりませんが、少し気にしています。</p> <p>この計画の中で関係するところというと、47～48ページの福祉意識の向上というところで特に10代、20代がアンケートの中でも転出したという割合が高くなっているのので、そういった方へ啓発を進めていくことが一つ考えられるのかなと思います。具体的には、学校や地域の福祉教育へ興味を持ってもらうということも有用かと思います。</p> |
| 鹿島委員 | <p>これからの時代を担う人たちがこういう感覚でいられると、住みにくいのかなとか、何か理由があるのかなと考えてしまいます。大人は住みやすいとか安定してよいところだと感じているかもしれない、子どもはそうじゃなく親が住みたくないと思っているからその影響に敏感で子どもたちも住みたくないと思っている。親の影響が子どもたちに敏感に伝わるし、子どもたちの意見になってしまうので、若い人の意見はこの人たちの親の世代で考えていることなのかと思って、この子たちの親の年代というのが50～59歳でしょうか。満足していらっしゃる割合は高くこのまま住み続けたいという結果、これを見て少しは安心したのですが、ただ具体的に子どもたちがどうやったら北本に住み続けたいと思うのか何かきっかけになるようなものが作れないのか、少しここが気になりました。</p> |
| 委員長 | <p>ご意見ありがとうございます。アンケートだけで分からなかったりもしますし、この計画でできるところ、できないところありますが、ご意見ありがとうございます。</p> |
| 浅野委員 | <p>評価のところ、22ページ以降ですが先ほど新型コロナウイルスで中止になったのでC評価だということでしたが、※を入れて注釈にするなりして、はっきりと理由を明記したほうがよいと思います。また、この評価は誰がしたのかということも補記しておいたほうが良いよいと思います。</p> |

| | |
|------|--|
| 事務局 | こちらの評価につきましては、それぞれの事業を担当している課の自己評価という形になっております。その自己評価をもとに地域福祉推進委員会で検討するという流れになります。C評価の注釈は補記したいと思います。 |
| 委員長 | ご意見ありがとうございました。第2章のところでは他にいかがですか。 |
| 仲谷委員 | 24ページの評価のところの一番下の「アクティブシニア社会参加支援事業」が「評価なし」となっていて、これだけだと思うのですが、「評価なし」の根拠を教えてくださいたいと思います。 |
| 事務局 | 「評価なし」にしている根拠ですが、本事業がもう事業を終了している事業になりまして、評価対象ではありません。 |
| 仲谷委員 | それが分かるように表記した方がよいと思います。 |
| 事務局 | 現行の計画でも目標年次を平成30年度としていまして、事業としては終了しているのでその旨を表記いたします。 |
| 委員長 | 他にご意見なければ、次に第3章の説明をお願いします。 |
| 事務局 | (説明) |
| 委員長 | ありがとうございました。第3章について説明いただきました。こちらについてご意見等ありますでしょうか。 なければ、次には第4章の説明をお願いします。 |
| 事務局 | (説明) |
| 委員長 | 施策の展開の基本目標の1～3までの説明を伺いました。社協の在り方や、ボランティアの方々を増やすのをどうやって行くか、成年後見制度にしても議論していただこうと思うのですが、ご意見等ありますでしょうか。 |

| | |
|------|---|
| 浅野委員 | <p>一番大事なのが、担い手づくりがすべてだと思うのですが、中身を見ていろいろなことを立ち上げようと思ったら一番最初に必要なことが資金面での支援です。それが計画に位置付けがないというのは残念だと思いました。社会福祉協議会の担い手講座とかいろいろあるのですが、これまでやってきたことですし、ボランティアの方自体の高齢化がすごく進んでいますので、新しい世代が入ってくる工夫が必要です。同じことを繰り返しているだけで、特に新たな取り組み等が計画案に含まれていないのが残念だと思いました。担い手を増やすところをもっとしっかりと書かれていないと、計画自体が5年間頓挫するということになると思います。</p> |
| 浅野委員 | <p>同じようなことをやってもだめで、根本的に変えないとだめだと思います。ボランティアはもう有償ボランティアということも考えないといけないし、お金が無いなら、無いならの、もっと違うことを考えていかなければならない。発展性のあることをやるという一文を入れておくだけでもできます。ただずっとやってきて進展のないことをまた書いても意味がないと思いますので、少しそこに工夫を加えてほしいと思います。</p> |
| 鹿島委員 | <p>これまでの地域のボランティアを担ってきた方はみんな高齢化、私も80になりますので、ボランティア活動は返上しようかなとも考えています。社会福祉協議会のボランティア活動に行こうとしても自分の足で行ける人が少なくなってきた、自転車に乗れば行こうかというのも少なくなってきた。車に乗っていける人も少なくなってきた。今後のボランティア活動は誰がどうやってやるのか、担い手というのをみんなで考えないとジリ貧になってしまう。先ほど有償のボランティアという意見がありましたが、ボランティアを維持するには何らかの方法を講じていかないといけないと思います。それには周囲に呼び掛けることも必要だと思います。</p> |
| 松崎委員 | <p>ボランティア活動を積み重ねていくと後で帰ってくるというポイント制度等がありますか。</p> |

| | |
|------|--|
| 浅野委員 | <p>全くの善意だけに頼っていたのではボランティアは成り立たないと思います。私もポイントをためることで自分に還元されるポイント制を前から提案しています。</p> |
| 委員長 | <p>委員の皆さんからの意見が示されていますが事務局のほうから何かご説明がありますか。</p> |
| 事務局 | <p>おっしゃる通りで今まで通りの同じことをやっていくのでは、改善しないというところはあると思います。委員の皆さんのご意見に対する直接的な取り組みではないかもしれませんが、76ページのところに①「地域福祉の中核を担う拠点・組織の充実」の表の中の下から2つ目に「多機関・多職種による連携強化」というところがあって、「きたもごちゃまぜの会」という取り組みを社協がやっています。これは、例えば福祉とは直接関係がないけれども、北本市をよくしていこうという志のある人が集まって、福祉の観点からどのように支援に関わっていけるのかというところで、新たに立ち上げたネットワークです。このようなネットワークが発展をしていって、新たな担い手として地域福祉にかかわっていくという新たな地域づくりにつながることを期待しています。</p> <p>また、直接ボランティアへの支援というのは難しいと思っていますが、仲谷委員もこのネットワークに入っていていただいて、いろんな団体が入っていて、いわゆるごみ屋敷の支援をするボランティア団体も新たに立ち上がり、このネットワークに参加されているところですが、計画には書き込めない細かいところで活発に活動しているところや新たな担い手が増えているところがあります。</p> |
| 仲谷委員 | <p>「きたもごちゃまぜの会」と書いてあるだけでは、何のことかわかりづらいところですが、今までになかった地域の企業の方や事業者の方が参加されているということが新しい部分です。企業の方がこういうことだったら支援できますというような、今後発展していくという実感が出てきました。特に子ども食堂で地域の方が非常に支援してくださっていて、社協の頑張りもあり、地域としての特色が見えてきた段階だと思います。計画の文言からはなかなか見えないのですが、ボランティアの受け入れについての問い合わせがあり、思いを</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>持っている方というのは確かに地域にはたくさんいらっしゃるのですが、既存のボランティア団体になかなか入りづらいこともあり、企業人間だった方が定年退職後に地域に戻って何をするかというのは自然と考えていく時代になってきたと思います。そこをうまく活用して、いろいろな活躍の場を作っていくことで、今までとは少し違う組織であってもOKだし、企業で勤めていた方が「きたもとごちゃまぜの会」にきて、個人的に参加するとか、今までの画一的な募集してこれをやりますということではなくて、自分たちがやりたいことをやっていくという、少しそういう流れがあるかと思いますので、私は新たな担い手の確保に関してあまり悲観はしていません。思いのある方がたくさんいらっしゃるということは実感しているところです。</p> |
| <p>深谷委員</p> | <p>今日もボランティアの関連の方と会議をやって、若い方が入ってくれないとの意見がありました。若い方だと既存の団体に正式に入るといよりは、何かやろうというパッと集まってくる、集まってそれを継続するかというとまたパッと散っていくという傾向がある。</p> <p>それともう一つは今仲谷委員からも話がありましたように、私ども社協では2年位前からですか、フードドライブとかフードバンクといったことを始めました。これは社協の職員だけでやっているわけではなくて、声かけをしていろいろな団体の方に支援をいただきながらやっている。それは正式なボランティア団体に登録している方たちではなく、どちらかという子ども食堂にしても更生保護女性会の方たちが中心になって支援をいただいています。浅野委員のご指摘はもっともだと思うのですが、違う芽も育っている部分もあり、ボランティア団体数等の報告されている数だけで判断してよいのかというのはあるかなと思います。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>ありがとうございます。今あるボランティア団体の活動状況だけでなく、新たな流れの中でボランティア等に参加したい人のみが集まって活動するというボランティア活動のかたちもあるのではないかという話だったと思うのですが、そういったものも応援できるような書きぶりにされるとよいかと思います。</p> |
| <p>深谷委員</p> | <p>今は、ほとんどが皆さんスマホを使用しています。例えば、フード</p> |

| | |
|------|---|
| 山賀委員 | <p>バンクを実施する際に、スマホを活用してぱっと参加者がお集まりになるといったほうが、情報が早いですし、新たな動きができると感じます。</p> <p>私の弟なのですが、ボランティア活動の情報が、スマホにバンバン入ってきているようです。有償のボランティアですと通院の付き添い等があるようです。弟は仕事をしていますが、ボランティアの団体に入ると縛りがあるし、役職が回ってくると言い、団体には入らないと言っていました。気軽に参加できることは大事ということ言っていました。</p> <p>また、社協が子ども食堂等のボランティア講座を開催したときに、大勢の方がいらっしゃって、思いを持っている方は大変多いなと思いました。ただボランティア情報の周知について、市がやるのか社協がやるのかという議論がありますが、地域に一番身近な存在の自治会や自治会長をもう少し活用されるとよいのかなと思ったりします。</p> <p>もう一つは、若い担い手を大事にしてほしいというのが願いです。</p> |
| 浅野委員 | <p>私は自治会長をずっとやっているのですが、自治会長を通じてというのは、非常に安易な考え方で、現状、北本市内の自治会長は1年で交代する人が半分です。1年間やるだけの中にそういうのが入ってきたらもう二度と地域の活動に参加したくない。そういう人たちを作ってしまうことになりますので、自治会長を通じてという安易な考え方はやめたほうがいいですね。</p> <p>もし情報の周知をするのであれば、毎月自治会は班長会議をやっているの、そこにそういう話をしに行ってもら。自治会長にはこれ以上の負担をかけない。班長会議で話をして毎年継続していけば班長が変わっていくと思います。10年間やっていると地域の方の意識もだんだん変わりつつあり、それを実感として感じています。</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございます。今までのやり方で進むものと、今後新しく生まれてくるものを着実に進めていくことと、その両方が共存できるようにしていく必要があると思います。</p> |
| 吉田委員 | <p>新型コロナによって教育現場もずいぶんいろんな制限がついてしま</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>いました。特に人との交流は、本来であれば地域の児童福祉センターとかへお邪魔して子どもたちとの交流を図って、福祉教育に対して育てていきたいというのがあるのですが、感染拡大を懸念して、なかなか進まない状況です。また、学校というのはやたらと木が多いので桜とけやきの時期には、清掃に人手が要ります。それで週に一度は生徒みんなのボランティアでお掃除をしましょうということでやったりするのですが、「ありがとう。助かるよ。」って声をかけてあげると生徒もうれしそうな顔をして、多感な生徒も非常に喜ぶところを見ると、人に認めてもらって役に立っていると実感できるということがあれば子どもたちはすぐやるのだと思っています。大人の場合、同じようにはいかないでしょうが、やる気をどういう形で喚起していくかというのはすごく思います。</p> <p>以前に勤務していたのは小学校だったのですが、地域の方がすごく関わっていただきました。ただ皆さんもう80になるお年頃で、学校としてはどうにかしてこの活動を続けていきたいと思っているのですが、なかなか広がっていかないというのがあります。ただ今のお話を伺ってそういう方は潜在的にたくさんいらっしゃるというのは感じました。もっと良い方法があるのではないかと思います。</p> <p>私はこれまでずっと学校現場で働き続けて、59歳になり、あと1年で地域に戻っていかなければならないのですが、地元で何が行われているかわかっていないのです。そこで生きていく以上何らかのかかわりを持って生きていかなければならないと思います。</p> <p>ありがとうございます。声を掛け合うということですね。地域を支える担い手づくりというのは誰かがつくるのではなくて、つくり合っているのだらうなということを感じます。</p> <p>吉田委員の話を聞きましてなるほどと思いました。私は年が82歳になります。私はロータリーから入り、そのあと障害者福祉団体連絡協議会の代表になり、様々な面ですごく良い勉強になっています。委員の皆さんの意見をお伺いして、文章の文言が分かりにくいということ、アンケートの内容が分かりづらい、また世の中が移り変わっているのだと感じました。実は、石戸小学校は桜の木を伐採していたと思いますが、何で伐採したのだらうと思ったのですが、花卉が散って大</p> |
| 委員長 | |
| 白石委員 | |

| | |
|------|---|
| | <p>変なのだろうか。周りの方がよしとして掃除をしてくれないというのもどうかと、これも世の中の移り変わりでしょうか。また、これまでの計画策定の手続きや資料の内容等が違うのでこれも一つの時代の流れかと思っており、こう変わるのだとただ受け入れています。</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございました。変わるものと変わらないものということで、ありがとうございます。続きまして次の第4章の説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>(説明)</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございました。第4章の目標4と5について説明していただきました。</p> |
| 近藤委員 | <p>この中で、避難行動要支援者名簿のことが書かれているのですが、この表についてですが、61ページのところですが東日本大震災の時に地域包括支援センター職員が独居の方の安否確認に回ったときに、包括だけでは回り切れないような状況で電話も通じなかったりして、混乱した経緯があります。それからサービスを使っている方などはサービス事業所の職員と重複して回っていたり、効率よくできない中で、見に行けなかった方もいたりすることを経験いたしましたので、支援者名簿を関連する機関と共有して、そういうことが起きた時に分担して安否確認ができるような体制を作ったほうがよいのかと感じました。</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございました。避難行動要支援者名簿は会議の中でもこれまで更新の仕方とか保管の仕方とかが議論されていたところかと思えます。事務局からいかがですか。</p> |
| 事務局 | <p>具体的に近藤委員の意見を書き込めるかどうかは所管しておりますくらし安全課とも書きぶりが正しいかどうか相談をしてみます。</p> |
| 委員長 | <p>活用の仕組みについてですね。せつかくあるものが活用されるような仕組みを整えるというような言葉で書けるものかどうかというご意</p> |

| | |
|------|--|
| 山賀委員 | 見がありましたということで。 |
| 委員長 | 障がい者の情報の取り扱いは慎重にしてほしいです。 |
| 委員長 | 個人情報の取り扱いというのはセットで行きたいですが外してはいけないということで、書いていただけたらと思います。個人情報を保護しつつ活動について考えていただければと思います。 |
| 浅野委員 | 69ページの3のところ、安心カード事業、これは市社協が書いたものですが、社協だけにとどめる必要はないのではないのでしょうか。これは全世帯が持ってもよいカードだと思うのです。うちの自治会は毎年全世帯に書いてくださいということで配っており、市の事業としてやってもよいくらいだと思います。救急車が来た時に紙さえ見れば、持病が分かる、飲んでいる薬が分かる、緊急の家族の連絡先がわかる、全部書いてありますので、もっと実施主体を拡充した書き方でよいと思うのですが、いかがなものでしょうか。 |
| 委員長 | ありがとうございました。社協はいかがですか。 |
| 事務局 | もともとこの取り組みは、災害時に冷蔵庫の中に情報を入れておこうということで、緊急時に自分が慌ててしまったり自分が巻き込まれてしまったときに情報を活かそうということで、北海道のほうから始まった事業が全国的に広がったというものなのですが、それを行政でやっているところと地域でやっという選択ができた時代もありました。なかなか行政で実施するというわけにはいかなくて、社協のほうで提案をし、地域のニーズだから地域でやっというって、支部社協の取り組みを本部社協が習ってどこの地域でもやっというってことで広げた事業でもあるのです。そういったことで今3000とか4000という数を皆さん使っていると思います。ただこういった場でお話というのは難しいところもあるのですが、そういった情報を別の見守りに使えなかったかなというのは正直私たちも、私の立場的にも反省をしまして、例えば地域の自治会さんなり、民生委員さんと情報を共有しながらできる範囲で見守り活動というものもできたのではないかと考えたことはあります。質問と逸れてしまったのです |

| | |
|------|---|
| 浅野委員 | <p>が、なかなか行政も予算化して全員に配るのはできるかどうかは行政のほうに聞いていただくことになるのですがなかなか難しいのかと思います。</p> <p>孤独死の方と思われる方が実際にいたとき、その時にその方は安心カードを書いていただいていたかどうかわかりませんが、近所の方は通報するだけにして、あとは警察や消防が情報を共有することができ、実際使った時の使い勝手の良さを実感した人にとってはぜひ全体に広げていってほしい取り組みで、一番簡単に広められる取り組みの一つだと思います。</p> |
| 委員長 | <p>ご意見をいただいたということで、とりかかっていただけだと思います。第4章までよろしいでしょうか。では第5章の説明を事務局からお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>(説明)</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございます。では第5章、計画の推進のところにつきましてご意見がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。ありがとうございます。では第5章までご意見をいただきました。では議題は以上になります。</p> |
| 事務局 | <p>(2) その他 【次回会議の日程について】</p> |
| 委員長 | <p>この他に御意見等ありますでしょうか。たくさんのご意見をいただきありがとうございます。進行を事務局にお返しいたします。</p> |
| 事務局 | <p>5 閉会</p> <p>長時間にわたり慎重なご審議をありがとうございました。委員長のほうからもお話がありましたが、本日いただいたご意見を修正できるところは修正いたしまして、12月19日から1月20日まで1か月間パブ</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>リックコメントということで市のHP、また窓口等に計画の案を置きまして市民の方からご意見を頂戴する機会となります。またいただいたコメントへの修正案につきましては、2月のこちらの会議でどのように修正したのかということをご報告させていただきますのでご協力をよろしくお願いいたします。それでは以上を持ちまして第3回北本市地域福祉推進委員会を閉会とさせていただきます。皆様ありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p> |
|--|--|